

特定非営利活動法人日本放射線腫瘍学研究機構 (NPO-JROSG)

2013 年度 部位別委員会会議報告

1. 開催日時：2013 年 7 月 27 日（土） 15：50～16：45
2. 開催場所：東京女子医科大学病院 総合外来センター 大会議室（5 階）
3. 部位別委員会会議報告
 - (1) 脳・神経系腫瘍委員会
 - (2) 肺・縦隔腫瘍委員会
 - (3) 泌尿器腫瘍委員会
 - (4) 頭頸部腫瘍委員会
 - (5) 乳腺腫瘍委員会
 - (6) 悪性リンパ腫・血液腫瘍委員会
 - (7) 消化器腫瘍委員会
 - (8) 婦人科腫瘍委員会
 - (9) 緩和医療委員会
 - (10) 小児腫瘍委員会

1. 脳・神経系腫瘍委員会

【出席者】前林 勝也（副委員長）、井垣 浩、角 美奈子、林 靖之、田中 良明（オブザーバー）

【議題】

1. 施行中の研究

- ①データ蓄積を目的とし、転移性脳腫瘍に対する低線量全脳照射と定位照射の組み合わせ治療を少数施設で施行中
- ②臨床試験を行うための初期データ収集のために、単施設にて予後不良因子を有する膠芽腫に対する短期照射を施行中

2. 検討中の研究

●調査研究

- ①髄膜腫に対する放射線治療の現状把握のための調査研究（林先生主導）
⇒結果によっては前向き観察研究あるいは介入研究を検討する。
- ②転移性脳腫瘍に対する定位照射法の現状把握のための調査研究（井垣先生主導）
⇒4-①で結果をまっで行う予定である、第3相試験の時の定位照射の community standard を明確にしておくことが可能。また、結果によっては前向き観察研究あるいは介入研究を検討する。

●介入研究

- ①再発 GBM に対する新規治療法の安全性有効性に関する研究
⇒照射野内再発に対する AVASTIN 併用再照射を評価する
(問題点：照射法は SRS、SRT、SIMRT (stereotactic IMRT)、3D-CRT を entry 可能とするために、病変サイズと線量基準をどうするか?)

2. 肺・縦隔腫瘍委員会

【出席者】早川、小宮山、平川、久保、木村（順不同、敬称略）

【議題】

- (1) 前回議事録確認
- (2) 現在進行中及び作成中のプロトコル経過報告
 1. JROSG10-1 の進捗状況（木村）
 - ・ 現在、レベル3（60Gy/8fr）で9例登録（うち、広島大の1例は不適格）
 - ・ 引き続き症例集積を・・・（レベル3はあと2例）
 2. 限局型小細胞肺癌に対する放射線照射線量増加法のランダム化第II相試験（CALGB 30610/RTOG 0538 準拠）の進捗状況について
 - ・ プロトコルはほぼ完成しているが、資金難のためJMOでの試験実施が困難。データセンターは九州がんセンター 下川元雄先生に依頼。
 3. I期小細胞肺癌に対する定位照射調査報告について
 - ・ 調査報告プロトコルが完成し、メール会議施行した。
 4. III期非小細胞肺癌に対するCBDCA+Nab-PTX+RT phase II試験について
 - ・ 前回議事録ではphase Iであったが、phase IIで行う予定。
- (3) 今後の進め方
新規プロトコルについて
唐澤先生より：肺・肝定位 国際共同研究のプロトコル提案あり。
プロトコル文章ファイルを送付して戴き、メール会議を。

次回は2013.11月の肺癌学会総会を予定

3. 泌尿器腫瘍委員会

【出席者】中村 和正（委員長）、石川 仁（副委員長）、秋元 哲夫、青木 学、加藤 弘之、坂口 雅州、前林 俊也、溝脇 尚志、吉岡 靖生、萬 篤憲

【議題】

JROSG 泌尿器腫瘍グループでは、以下について検討した。

1) 現在までに行った後ろ向きアンケート調査の結果報告

「前立腺癌術後 PSA 再燃（再発）に対する救済放射線治療及びアジュバンド術後放射線治療に関する調査研究」および「膀胱癌に対する放射線照射後の予後に関する調査研究」について、論文投稿中または論文準備中であることが報告された。

2) 抗凝固薬・抗血小板薬内服が前立腺癌放射線治療後の直腸出血の頻度と程度に与える影響についての前向きコホート研究

局所限局性前立腺癌に対する放射線治療例を対象に、抗凝固薬内服が前立腺癌放射線治療後の直腸出血の頻度と程度に与える影響を明らかにするため、多施設の前向きコホート研究を実施することを決定した。

3) 前立腺癌 D1 症例に対する放射線治療の研究

まず、前立腺癌 D1 症例に対する放射線治療の調査研究を実施することを決定した。その後、IMRT による前向き試験を検討することとなった。

4. 頭頸部腫瘍委員会

【議題】

現在進行中および終了後の試験

原発不明癌アンケート調査 現在論文作成中

最発癌に対しての再照射アンケート JASTRO にて発表予定

喉頭がんに対しての S-1 併用放射線療法の P-II 試験 症例登録の推進について意見交換した。

セツキシマブの観察研究 承認後契約等の手続きが終了後参加施設呼びかけ

新規提案

頭頸部がん患者の QOL に関するアンケート調査 国立がんセンター東病院茂木先生より提案あり 婦人科グループにて同様の試験をおこなっており兼安先生に状況をお尋ねしてみることにした。

再照射に対してのセツキシマブ併用放射線療法の提案 JCOG 試験準備との兼ね合いで検討していくことにした。

以上

5. 乳腺腫瘍委員会

【出席者】唐澤 久美子、青木 昌彦、淡河 恵津世、山内 智香子

【欠席者】鹿間 直人、川島 実穂、関口 建次、関根 広、野崎 美和子

【議題】

1. JROSG 05-5 乳房温存を希望する非浸潤性乳管癌 (DCIS) 高リスク群に対する乳房温存療法術後照射に関する前向き臨床試験

症例登録を終了し、経過の追跡調査中である。鹿間副委員長が中間解析結果を本年度の米国放射線腫瘍学会で報告する予定である。

2. 乳房インプラント挿入例に対する放射線療法の安全性に関する前向き臨床試験の再検討

2011 年度の予備調査では協力可能施設と症例が少なく、研究として成立しないと考えていたが、乳房インプラントが保健適応となり、乳房インプラント挿入例に対する放射線療法の安全性を検討することは益々重要となった。日本オンコプラスチックサージェリー学会も 9 月に発足し、要請もあるため形成外科や乳腺外科と協議しながら状況をみて何らかの研究を再検討する。

3. 腋窩リンパ節転移陽性例に対する鎖骨上窩照射の有用性に関する調査研究の検討

腋窩リンパ節転移陽性例、特に 4 個以上の転移陽性例に対して鎖骨上窩の予防照射が一般的に行われるようになって来ている。その施行率等の実情、腋窩リンパ節転移 1-3 個陽性例に対する鎖骨上窩照射の実情などを調査して、前向き臨床試験の基礎とする。また、腋窩リンパ節転移陽性で鎖骨上窩に照射していない時代の症例を遡及的に調査し、照射例と対比検討する。

4. 温存乳房照射例のデータベース構築についての提案

JASTRO data base の再構築の話があるが、乳癌学会の調査より詳細な、放射線治療の内容と結果を含む、全国の温存乳房照射のデータベースを構築し、本邦からの結果を発信する準備とする。引き続き協議を続けて実現を目指す。

文責：唐澤久美子

6. 悪性リンパ腫・血液腫瘍委員会

【議題】

グループ会議における活動計画提案

1 International Lymphoma Radiation Oncology Group (ILROG) との共同教育・研究活動

① ILROG では、悪性リンパ腫に対する放射線治療のエキスパート・コンセンサス・ガイドラインとして Involved Site Radiation Therapy (ISRT) を提唱している。従来の Involved Field RT (IFRT) は、薬物療法の進歩した現状では範囲がやや広いと考えられ、その急性および遅発性毒性から、血液腫瘍内科が放射線療法を忌諱する原因の一つである。EORTC が提唱した Involved Node RT (INRT) は、辺縁再発が少なく照射野を縮小できる優れたコンセプトであるが、臨床試験では用いられるものの、実臨床では規約の厳しく実用的でない欠点がある。そこで、ILROG では、規定を緩やかにしつつも実用的な ISRT を提唱して、各国や各施設で独自に修正してバラツキのある照射野を標準化し、低毒性かつ有効性が担保できるように活動を始めた。ホジキンリンパ腫、節性非ホジキンリンパ腫と節外性リンパ腫についてエキスパート・コンセンサス・ガイドラインの論文が出版される（文献 1）。JROSG 悪性リンパ腫・血液腫瘍委員会では、ILROG の ISRT を理解し普及する活動をする。

② ILROG では、ISRT の内容に関する教育普及活動として、ESTRO では FALCON という e-contouring システムを利用して活動を開始した。ASTRO では有料の e-contouring teaching session がある。JROSG 悪性リンパ腫・血液腫瘍委員会の活動として、日本における教育普及活動をしたいと考えている。例えば、non-clinical RT planning PC (がん研究会：7 台 or 企業から借用) を利用して contouring teaching session を企画する。ILROG から講師や資料は提供される可能性がある。11 月末に JROSG 悪性リンパ腫・血液腫瘍委員会メンバーが ILROG 講師から指導者講習会を受けるように企画中である。

③ ILROG では、悪性リンパ腫に対する放射線治療の役割を明確するために、国際共同研究を企画している。各施設では症例数が少なくデータが出せない疾患に対して、参加できるメンバーによる遡及的調査研究や前向き臨床試験を企画している。JROSG 悪性リンパ腫・血液腫瘍委員会が、日本の窓口になって、国際研究に協力予定である。現在、stage I/II のマンツル細胞リンパ腫の遡及的研究が行われている。日本では登録例がほとんどない。

④ ILROG では、個人会員と施設会員を募集する予定である。個人会員は、学会費程度と思われるが、施設会員は 20 数万程度かかると予想される。JROSG 悪性リンパ腫・血液腫瘍委員会が ILROG の日本からの統一施設として参加を申し込んでいる。JROSG 理事会では参加費用負担が承認された。

2 遡及的調査研究

① 造血幹細胞移植前処置としての全身照射の対象疾患および照射方法の全国調査および晩期有害事象の前向き調査

背景 全身照射は、多忙な放射線治療部門において時間と人手をかけざるを得ない治療ではあるが、造血幹細胞移植の前処置として重要な治療法であり、今後適応疾患も増加する可能性のある治療法である。一方、全身照射の照射方法は各施設の状況に応じて種々の方法で施行されているのが現状である。その方法について過去数回の全国調査が行われてきたが、最新のものは2003年に施行されたもので、10年前の調査である。我が国における全身照射の実施状況は不明と言わざるを得ない。そこで今回、JROSG 血液腫瘍リンパ腫グループでは、最新の全身照射の実施状況に関する全国調査を企画した。また、有害事象については、各施設が様々な照射方法で施行しているため、多施設共同試験などには向かない治療法で、種々の方法による有害事象の頻度などはあきらかになっていない。そこで全国調査に引き続いて前向きの有害事象調査を企画した。

目的 本邦における全身照射の実施状況と毒性を知る

検討事項

- ① 全身照射の対象疾患の過去5年間のアンケート調査研究
- ② 全身照射の照射方法のアンケート調査研究
- ③ 晩期有害事象の前向き調査

検討方法

JASTRO 構造調査で全身照射を施行している全施設に検討事項①②のアンケート調査を行うとともに今後の前向き調査参加③に同意するかどうかの意向調査を行う。

文責 小口正彦

7. 消化器腫瘍委員会

【出席者】西村恭昌（委員長）、根本建二（副委員長）、小川和彦、神宮啓一、板坂 聡、伊藤芳紀、村上祐司、山川通隆、岡本雅彦

【欠席者】唐澤克之、伊藤善之、権丈雅浩、小池竜太、高橋健夫、玉本哲郎、根来慶春、野中哲生、小林雅夫、坂谷内徹、櫻井英幸、笹本龍太、野宮琢磨、白井克幸、磯橋文明、川口 弦

【議題】

- 1、JROSG 05-2 は、症例集積不良のため中止。根本先生
- 2、肛門癌プロトコール JROSG10-2 は、最終審査を終了し、各施設で開始する。唐澤先生
- 3、頸部食道癌 IMRT プロトコール JROSG12-1 は、症例登録中、東北大学も症例登録可能になる。板坂先生
- 4、食道癌の施設別治療成績アンケート第2報を今年の JASTRO で発表予定。西村
- 5、西村委員長、根本副委員長は今期をもって辞退し、今後小川委員長、神宮副委員長が消化器腫瘍グループを率いることとなった。今後夏の総会以外に、癌治療学会、日医放などの際に消化器委員会を開くこととした。
- 6、食道癌の照射野に関しては、T1bNOMO に限ったランダム化比較試験を作成することが合意された。担当：神宮先生

8. 婦人科腫瘍委員会

【出席者】委員：生島仁史、宇野 隆、大野達也、兼安祐子、戸板孝文、徳丸直郎、野田真永、播磨洋子

【欠席者】委員：楮本智子、加藤真吾、清原浩樹、五味弘道、中野隆史、新部 譲、西村哲夫、若月優 (敬称略、五十音順)

【議題】

1. 報告事項

1) 平成 24 年度委員会議事録の確認

2) 研究進捗状況報告

- ・ I, II 期子宮頸癌根治的放射線治療成績：全国集計（戸板）
 - 約 630 例について現在琉球大有賀により論文作成中。
 - IB2 期に特化した解析と論文化についての提案があった。解析の可否をデータセンターへ確認する。
- ・ 子宮頸癌の放射線治療予後予測因子としてのバイオマーカー（ApoC-II）の再現性評価に関する多施設共同前向き試験：JROSG10-4（播磨）
 - 現在まで 58 例登録。2014 年 3 月まで 150 例の登録を目標。
 - 検体に「治療前」、「治療後」を明記するよう注意喚起。
 - 化学療法レジメンは実施計画書に準拠することを確認。
 - 婦人科腫瘍委員会委員の施設で IRB 未の施設も早急に申請を依頼する。
- ・ 子宮頸癌治療後の QOL に関する全国調査-放射線療法群と手術療法群の比較-（平成 22・23 年度 JASTRO 課題研究班との共同研究）（兼安）
 - 現在まで 95 例登録。100 例を目標。
 - 婦人科腫瘍委員会委員の施設で IRB 未の施設も申請を依頼する。
 - 調査表に晩期有害事象発生日を追加する。

2. 協議事項

1) 新規研究提案

- ・ 子宮頸癌術後照射のアンケート調査（徳丸）
 - 術後照射の晩期毒性について主にデータを収集し解析する。
 - 協議の結果、リンパ節転移陽性例（高リスク群）のみ調査を行う方針に。

2) 今後の活動方針

3. その他

9. 緩和医療委員会

【出席者】鹿間、和田、原田

【議題】

1. JROSG11-1

1) 登録ペースが遅いため、予定期間内での登録終了は難しく、登録期間延長（2年間）を行う。これを超えての延長は行わず、3年間で集積できた症例で解析を行い、しめるべき学会、雑誌への投稿を行う。

2) 登録スピードを上げるため再度参加施設に登録可能例のリマインドを行うため、簡単な資料を作成し、参加施設の研究者および施設の泌尿器科医への周知を行う。

2. その他の試験について

今回は新たな試験の提案は出されなかった。

文責：鹿間直人

10. 小児腫瘍委員会

部位別委員会会議開催せず